

浅間山麓

未来への遺産

Vol.100

地層は語る

浅間山の火山災害



楓ヶ丘地区の追分火砕流の地層。10メートル近くもある。約900年前のもの。

霧島連山新燃岳の噴火の行方が心配なこのころだが、浅間山麓に暮らす私たちも他人事ではいられまい。ここで過去の火山災害の一例を紹介しておくことにしたい。

写真は、平安時代末期1108年の浅間山天仁噴火の10メートルにおよぶ火砕流の地層で、楓ヶ丘地区に残るものである。火砕流とは、高温の火山灰、溶岩片などが一団となって流れ下る現象で、その温度は数百度、時速100kmを超える場合もある。その破壊力たるやさまざま、平成の雲仙普賢岳の噴火の映像を覚えていらっしゃる方も多いに違いない。

浅間山天仁噴火では、「追分火砕流」と呼ばれる火砕流が、湯川を突つ切り、面替にまで到達した。実はこの噴火、900年も前のことなので、長野県側の災害の記録はゼロ。どんなことが浅間山南麓の地域社会で起きたのがナンのままなのである。とはいえ、何メートルもの高温の火砕流を被った平安時代のムラが壊滅したことは想像に難くない。以前、各戸配布された「浅間山火山防災マップ」には、もしもの時の避難対策が記されている。新燃岳の噴火を他山の石とせず、日ごろから火山防災を頭の片隅に置いておきたい。



雲仙普賢岳の火砕流

(広告欄)

カンボジアの写真はこちらです
www.ooi-k.com/cambodia/



子供たちの
笑顔の
ぜひ
ご覧ください

携帯でも
ご覧頂けます!

ご感想・ご支援・お問い合わせ先
大井建設工業株式会社
TEL.0267-32-3333(代)
E-mail vip@ooi-kensetsu.co.jp 24時間受付

大井建設工業株式会社 代表取締役 大井康史

ぜひご覧ください。そして、皆様の温かい支援をよろしく願います。

自分の目で見て来ましたが、カンボジアはまだ復興の真只中です。
子供たちの生活環境はどうなっているのか？
キチンと勉強できているのか？
実際には何が足りないのか？
など、カンボジアの現状をカメラに収めてきました。



▲23人の仲間と協力して実現しました

去年、大井建設では全国の仲間と協力して、カンボジアに小学校を建設しました。今回で3棟目となります。
そして、去年12月21日(火)に、現地で開催された贈呈式に参加し、支援の必要性を再認識しました。



▲ノートと鉛筆もプレゼント

キラキラした瞳を忘れない
カンボジアの子供たちに愛の手を！



みよた広報やまゆりは、環境保全のため、大豆油インキを使用しています。